

大川貴子さん（なごみ＜相馬市・南相馬市＞）

■ 活動内容

相双地域で活動する「なごみ」（正式名称：NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会、所在地：相馬市・南相馬市）で理事長をしています。

ここでは、被災された方々の心の悩み相談に応じたり、生活に何らかの生きづらさを抱えている方々への訪問支援など、心のケアに関する様々な取組をしています。

■ 活動を始めたきっかけ

私の本職は福島県立医科大学の精神看護学の教員です。震災後、大学で「相双地域を支援する心のケアチーム」が発足した際、一員として現地に赴きました。各避難所からの要望に対応する忙しい日々でしたが、多くの応援があり助かりました。避難所から仮設住宅への移行時期になると、避難で疲れてしまった方々のためのサロンや健康教室を始めました。

心の不調には長期的なケアが必要のため、当初より、支援体制を常設に切り替える必要性を感じていました。また、医療機関の休止が相次いだため、精神医療を支える地域づくりも求められていました。このため、平成23年11月に「なごみ」を設立し、平成24年1月から相馬市に事業所を開所しました。



「実は、阪神・淡路大震災の時に兵庫県にいて、避難所で支援をしていました。今回、当時の経験が役立ちました。」と語る大川さん



なごみの活動拠点である、「なごみ相馬事務所」（左）と「なごみ南相馬事務所」（右）

復興のパイオニア（復興女子編）

■ 活動を通じて思うこと

「なごみ」は看護職、福祉職、心理職など多職種からなる組織ですが、震災前から相双地域で精神医療を支えていたメンバーが多く、「心の不調のある方々も地域で暮らせるよう、地域で支援する」という共通の想いで取り組んでいます。

震災前後で、地域の方々の心の不調に対して抱くイメージが変わってきた印象があります。震災前は「心の不調は特別に脆弱な人に起こる」というイメージがあったようですが、震災後は「心の不調は誰にでも起こりうるし、それを隠す必要はない」と変わってきています。それもあって、「なごみ」の取組を地域の方々に好意的に受入れていただいていると感じます。

「なごみ」の取組は震災をきっかけに必要に迫られて始まったものですが、地域の方々同士で支えていくことは、震災に関係なく、どこの地域でも必要なことだと実感しています。

今後、近隣自治体の避難指示解除に応じて、「なごみ」が支援する地域は広がります。適切な事業規模を判断することは難しいですが、新たな復興の段階に応じていきたいです。

■ 復興庁について

復興の段階に応じて、現場から求められる支援は新たに発生する面があります。今の支援をただ縮小する方向ではなく、各段階に必要なものを考えていただくと良いと思います。



月に1回行われている、なごみのスタッフ全員で話し合う運営会議の様子

紙
COCOROニュースなごみの表
スタッフの日頃の取組やイベントを紹介する「ニュースレター」相双COCOROニュースなごみ」の表

